



JAとなみ野 HP

令和5年7月20日  
JAとなみ野米作改良対策本部  
となみ野農業協同組合  
砺波農林振興センター

# 稲作情報 第7号

- コシヒカリの草丈・茎数・葉齢は近年並みで、幼穂形成期も近年並みの7月9日となったことから出穂期は、5月14日田植で、7月30日頃と予想されます。
- 稲体の活力維持を図るため、出穂期までの「飽水管理」と、出穂後20日間の「湛水管理」を徹底しましょう。
- 出穂7日前頃に葉色を確認し、葉色が4.0以下（砂壤土は4.2）と淡い場合は、追加穂肥を施用しましょう。

◎となみ野農協管内コシヒカリ展示ほ7月7日調査結果（R5年の出穂期は予想日）  
・コシヒカリの出穂期は平年並と予想されます。

	田植日	草丈 (cm)	茎数/株 (本)	茎数/m <sup>2</sup> (本)	葉齢 (葉)	幼穂形成期	出穂期
R5年	5月14日	67.7	26.4	514	11.7	7月9日	7月30日
前年	5月13日	75.0	24.4	498	11.9	7月7日	7月30日
近年値	5月13日	68.1	25.0	512	11.7	7月9日	7月31日

●出穂期は田植日、管理状況等により異なります。防除や収穫時期の目安ともなるので、出穂期の確認を忘れずに行いましょう。（出穂期：葉鞘から少しでも穂先が見えた茎が50%に達した日）

## 1. 「コシヒカリ」の追加穂肥（営農日誌 P77~78 参照）

穂揃期の葉色が淡いと「背白粒や基白粒」の発生につながります。出穂の7~10日前に必ず葉色を確認し、追加穂肥が必要かどうか判断しましょう。

【参考】北陸地方1か月予報（7月13日新潟地方気象台発表、予報期間：7月15日~8月14日）

向こう1か月の平均気温は高い確率60%、降水量は平年並または多い確率ともに40%、日照時間は期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多く、期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

※葉色や施肥の判断がつかない場合は、営農指導員へご相談ください。

### (1) 肥効調節型基肥（基肥一発肥料）の場合

出穂7日前の葉色が 4.0以下（砂壤土は4.2以下） と淡い場合は、

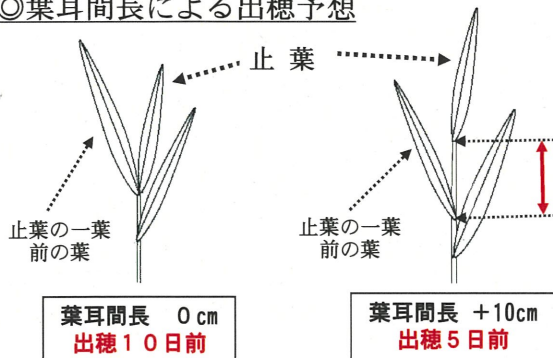
- ☞ 出穂7~3日前（走り穂がみられる頃）に「追肥3号（15-3-15）」を 5~7kg/10a 施用しましょう。

### (2) 分施肥体系（基肥一発肥料を使用していない体系）の場合

2回目の穂肥を施用しても葉色が4.0以下（砂壤土は4.2以下）と淡い場合は、

- ☞ 出穂3日前（走り穂がみられる頃）までに「追肥3号（15-3-15）」を 5~7kg/10a 施用しましょう。

### ◎葉耳間長による出穂予想



（出穂7日前に葉色確認）

葉色が淡い場合  
4.0（砂壤土4.2）以下

出穂7~3日前に追加穂肥を施用しましょう

穂揃期の葉色を  
4.2 ~ 4.5  
に誘導しよう！

## 2. 病虫害防除：中生品種（営農日誌 P79～80 参照）

- ◆田植 5/14、**出穂期 7/30** のコシヒカリの場合の防除予想日です。
- ◆出穂状況を確認し、適期に2回の基本防除を実施しましょう。

**！今年もカメムシが多発中！**  
 7/13~14 てんたかくほ場内すくい取り調査結果  
 確認地点率 R5年 94.4% (近年 83.7%)  
 発生頭数 R5年 4.4頭 (近年 5.5頭)



	防除時期	対象病虫害	粉 剤	液 剤
基本防除	穂揃期 (出穂後 3日頃) (穂先が見える茎が8~9割) <b>8/2 頃</b>	いもち病 カメムシ類・ウンカ類等	ビームスターク粉剤 5DL  4kg/10a	ビームエイトスターク液剤 ●地上散布 1,000倍液 150ℓ/10a ○空散 8倍液 0.8ℓ/10a
	傾穂期 (出穂後 10日頃) <b>8/9 頃</b>	カメムシ類・ウンカ類等	キラップ粉剤DL  4kg/10a	キラップフロアブル ●地上散布 1,000倍液 150ℓ/10a ○空散 8倍液 0.8ℓ/10a
随時防除	傾穂期防除後 7日 (出穂後 17日頃) <b>8/16 頃</b>	カメムシ類・ウンカ類等	スターク粉剤DL (収穫7日前まで) 3kg/10a	スターク液剤 10 (収穫7日前まで) ●地上散布 1,000倍液 150ℓ/10a ○空散 8倍液 0.8ℓ/10a

※随時防除の実施については、カメムシの発生状況に応じて、別途案内します。

- ★ 住宅地等ドリフトが懸念される場所では粒剤を使用しましょう

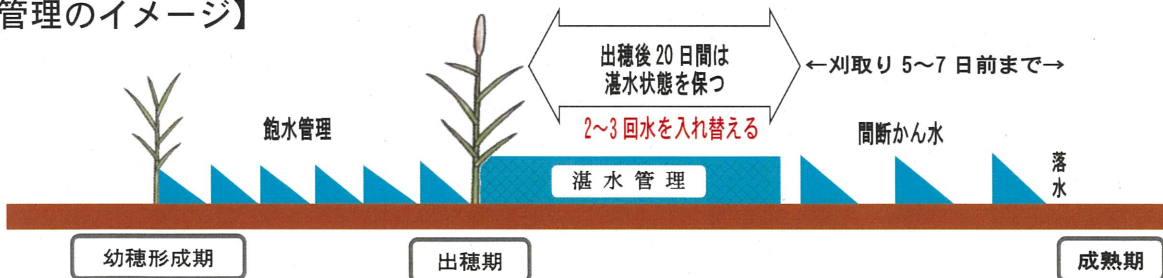
1回目：出穂10～15日前	2回目：穂揃期（出穂後3日頃）	噴頭散布または、粒剤専用ホースを使用する
フジワラップ粒剤 4kg/10a	スターク粒剤 3kg/10a	

- 農薬の使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。

## 3. 幼穂形成期～成熟期までの水管理（営農日誌 P81 参照）

- ・幼穂形成期～出穂期までは、足跡に水が残る程度の「飽水管理」を行い、干しすぎによる葉色の急激な低下を防ぎましょう。
- ・出穂後20日間は湛水状態を保ち、稲体の活力維持に努めましょう。湛水期間中は2～3回水の入替えを行い根の健全化に努めましょう。
- ・湛水管理終了後は刈取り5～7日前まで、間断かん水で水不足にならないようにしましょう。
- ・フェーンが予想される場合は、あらかじめ湛水状態を保ちましょう。

### 【水管理のイメージ】



農作業中は、水分や塩分をこまめに補給し、体調管理に十分注意しましょう！

### 【お問 い 合 わ せ】

砺波農林振興センター	農業普及課 砺波班	32-8113		
となみ野農業協同組合	経済部 生産企画課	32-8619	資材配送センター：あぐり館	32-5440
	稲種センター	82-0117	農業機械センター	58-5520